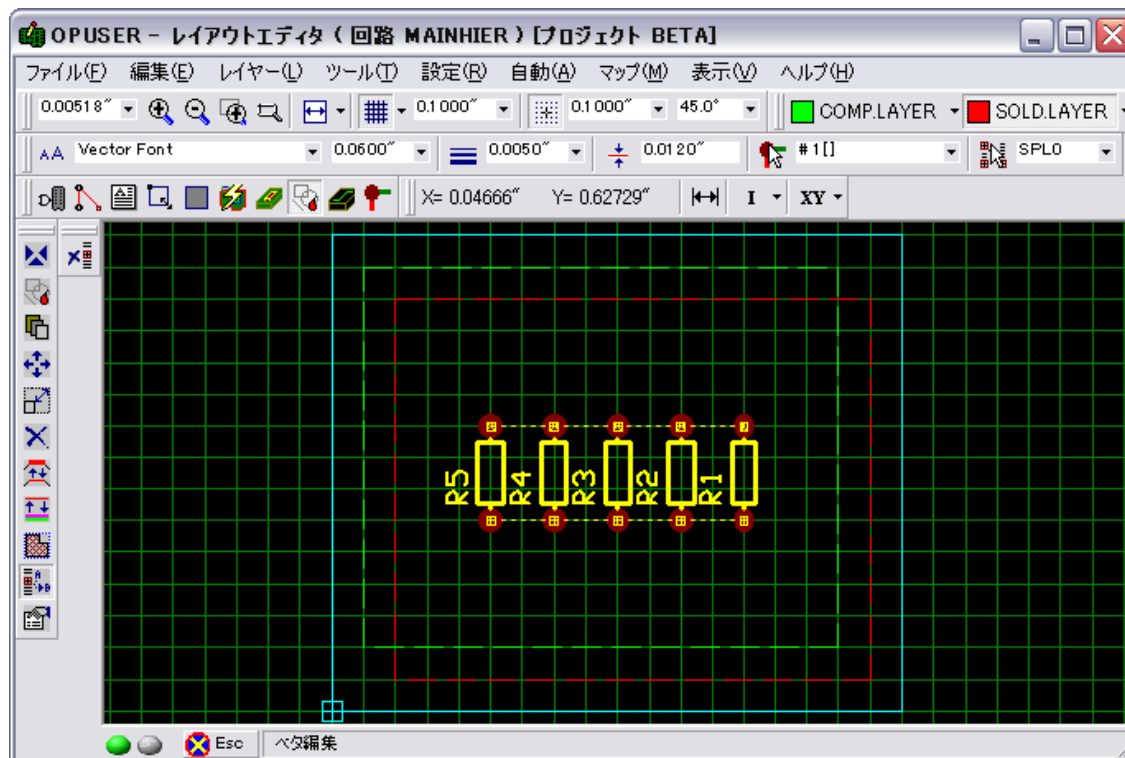


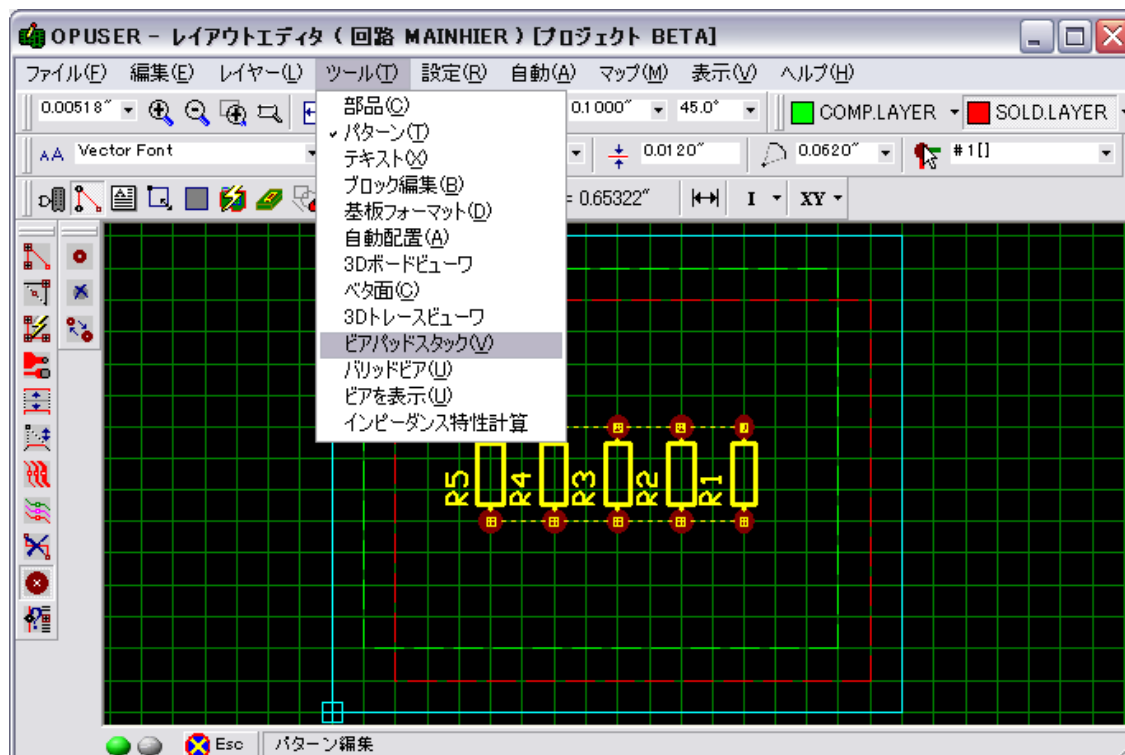
I. LAY GND ベタにビア穴を配置する

基板両面に位置する GND ベタにビア穴を配置します。

ビア穴単体を配置する方法と、パターンを作成、レイヤー変更した箇所を両面ベタ間のビア穴として作成する方法があります。



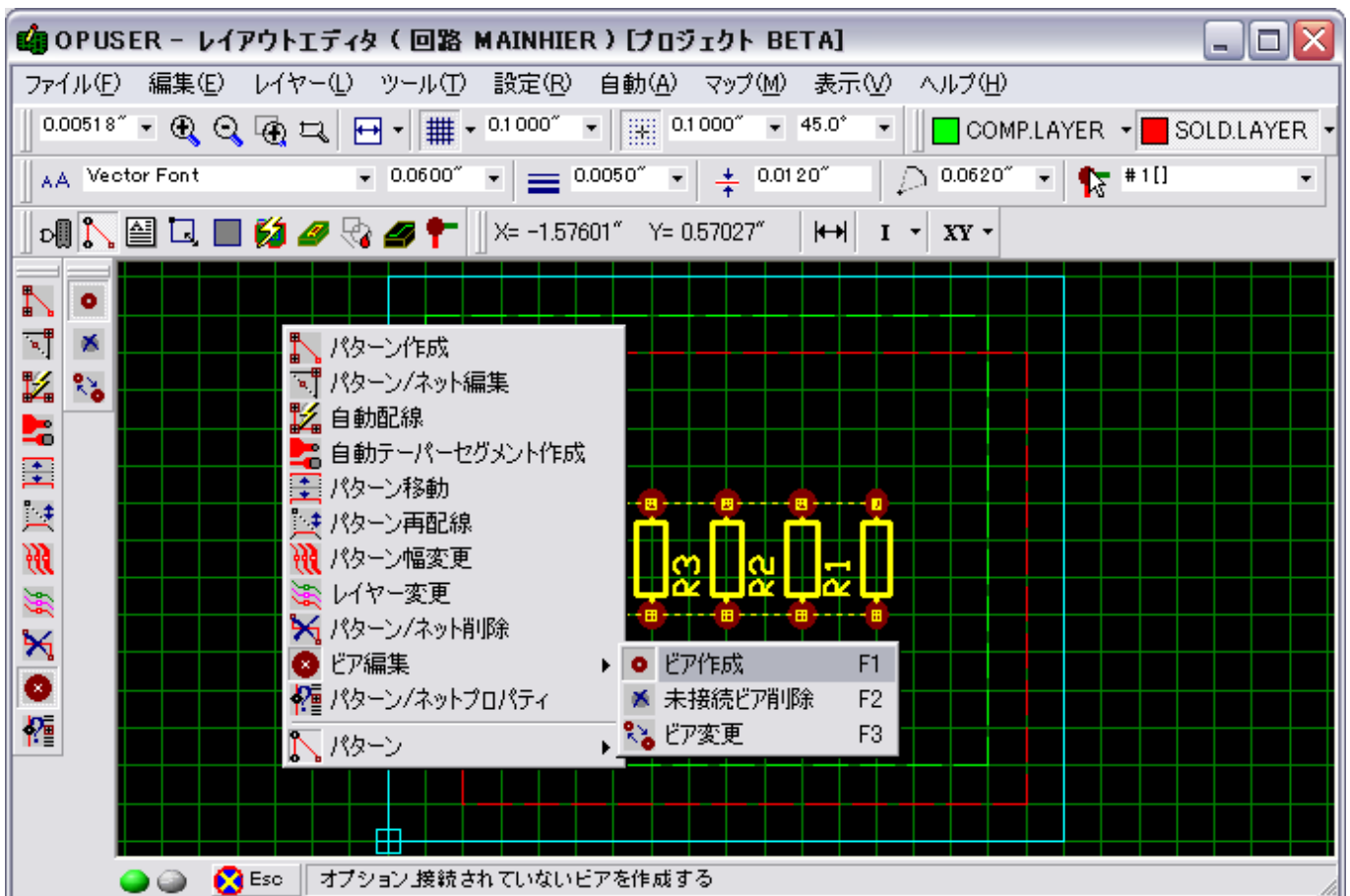
ビア穴単体を配置する場合、ビア設定箇所にて未使用のビアンバーを選択、エアギャップの値が『0』のビアパッドスタックを作成します。メニュー『ツール/ビアパッドスタック』を選択。



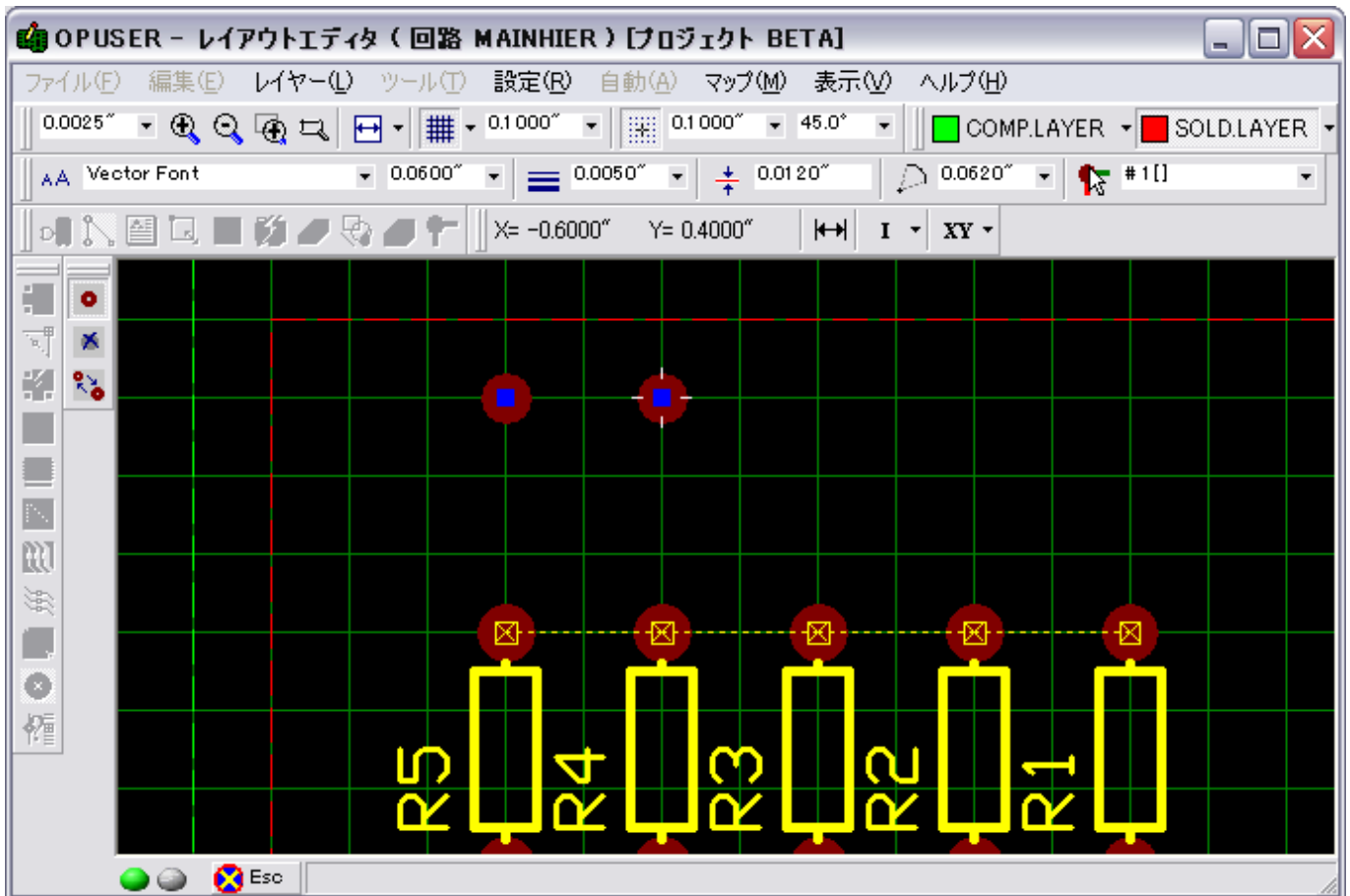
使用していないビアを選択エアギャップを『0』に設定します。



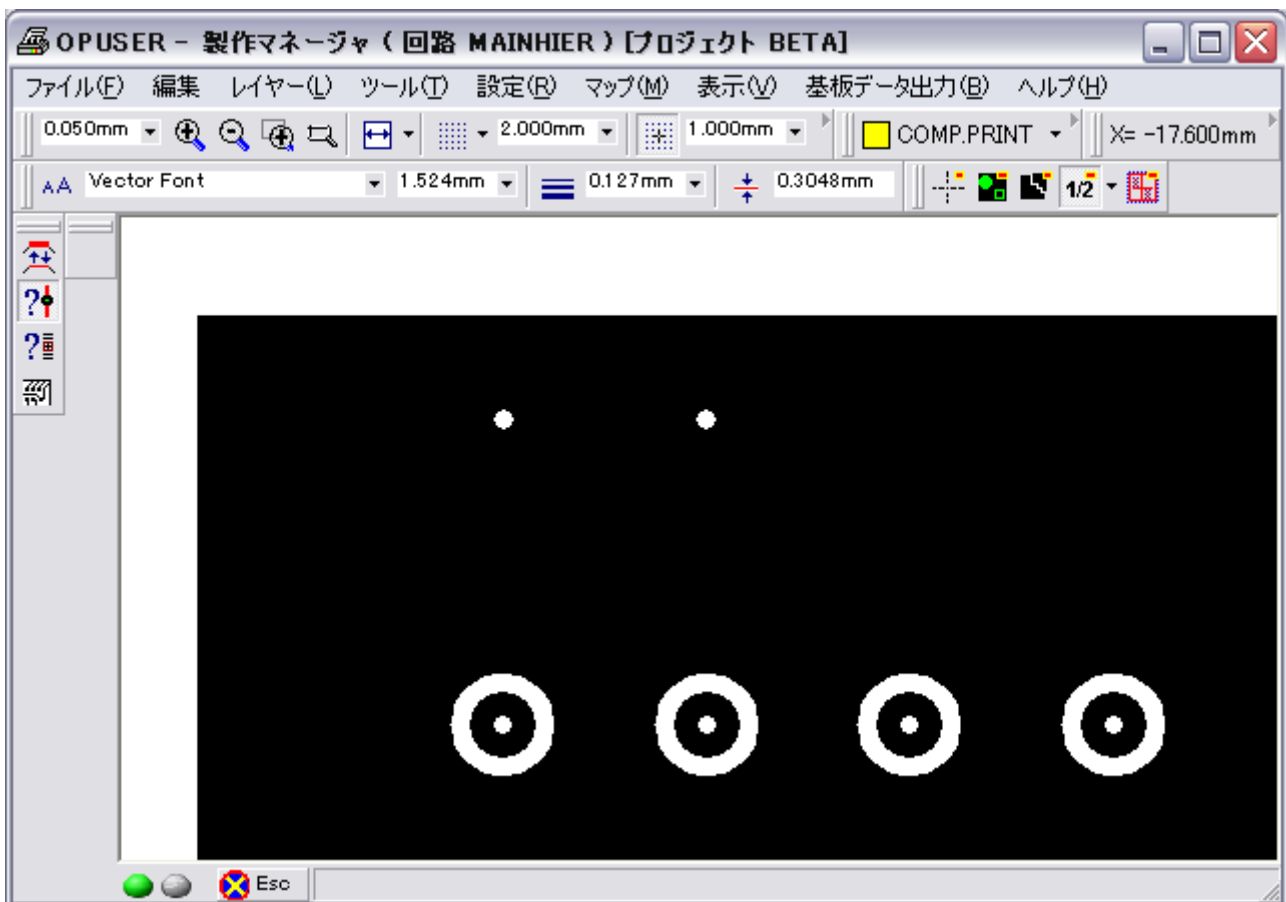
メニュー『ツール/パターン』ファンクションツールから『ビア編集/ビア作成』を選択。



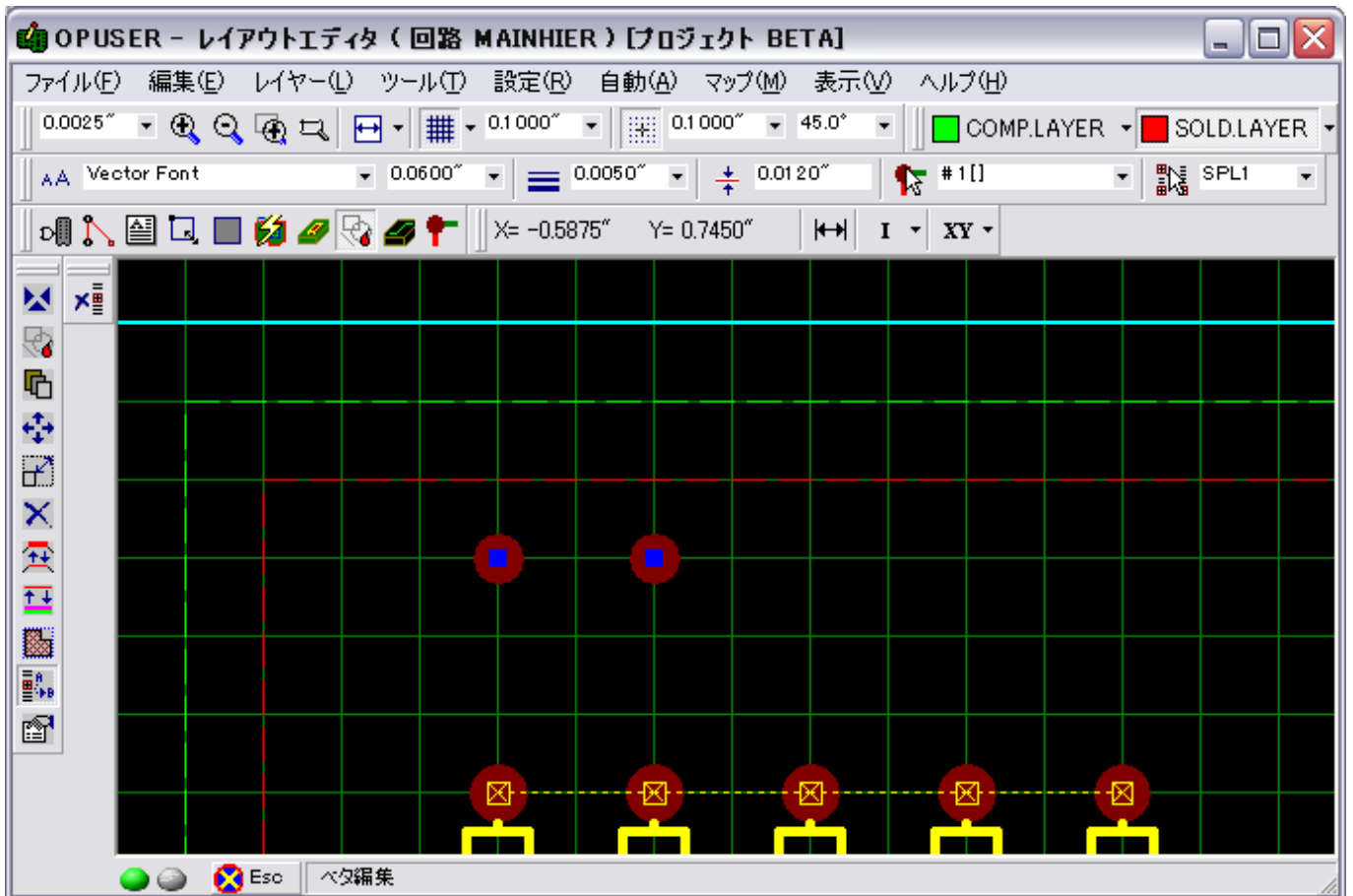
操作画面上で右クリックしてビア穴を作成します。



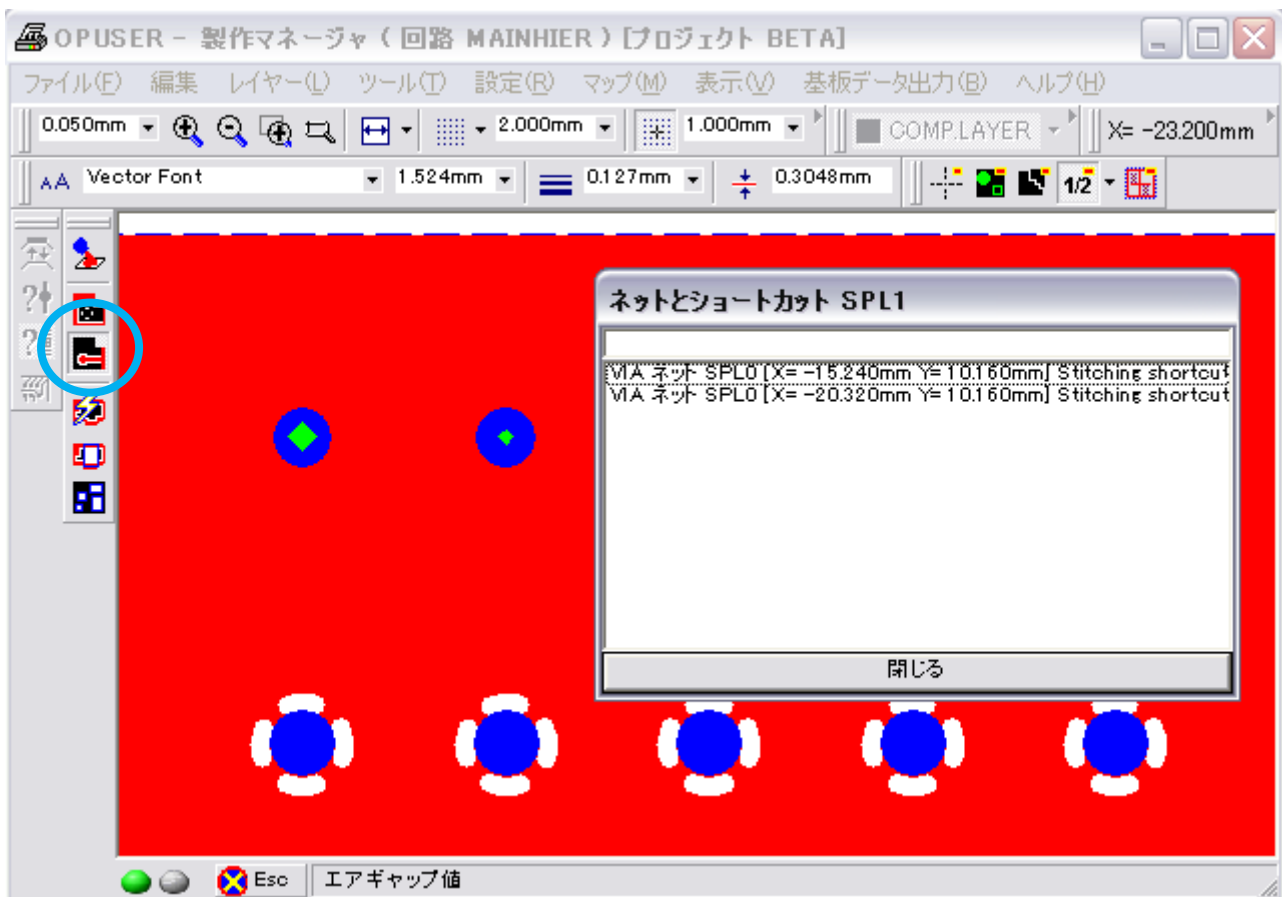
製作マネージャにてベタ面を確認すると下図の様になります。



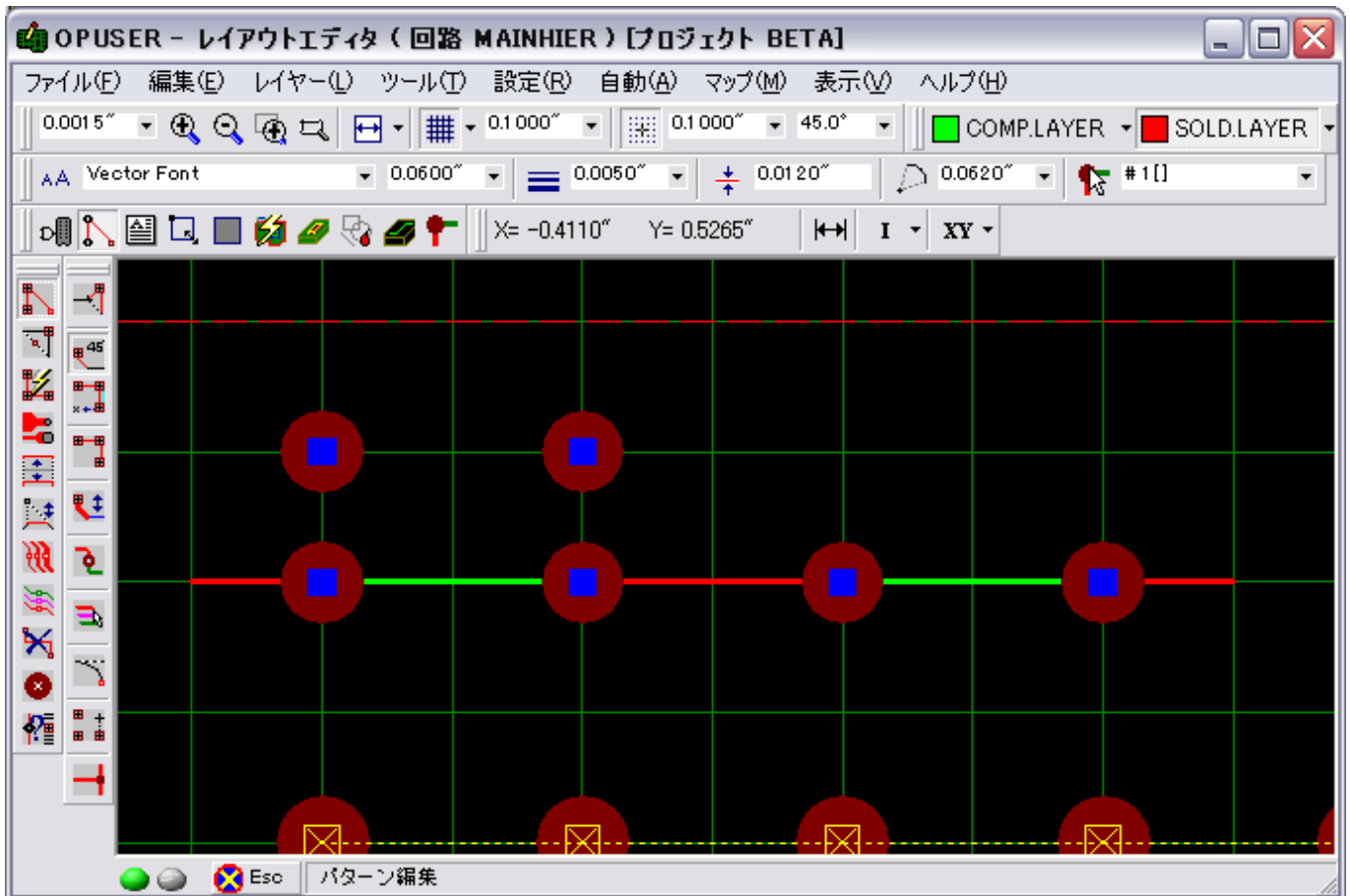
仮に表裏に配置されたベタ面のネット割り当てが異なる個所に、誤って配置した場合、



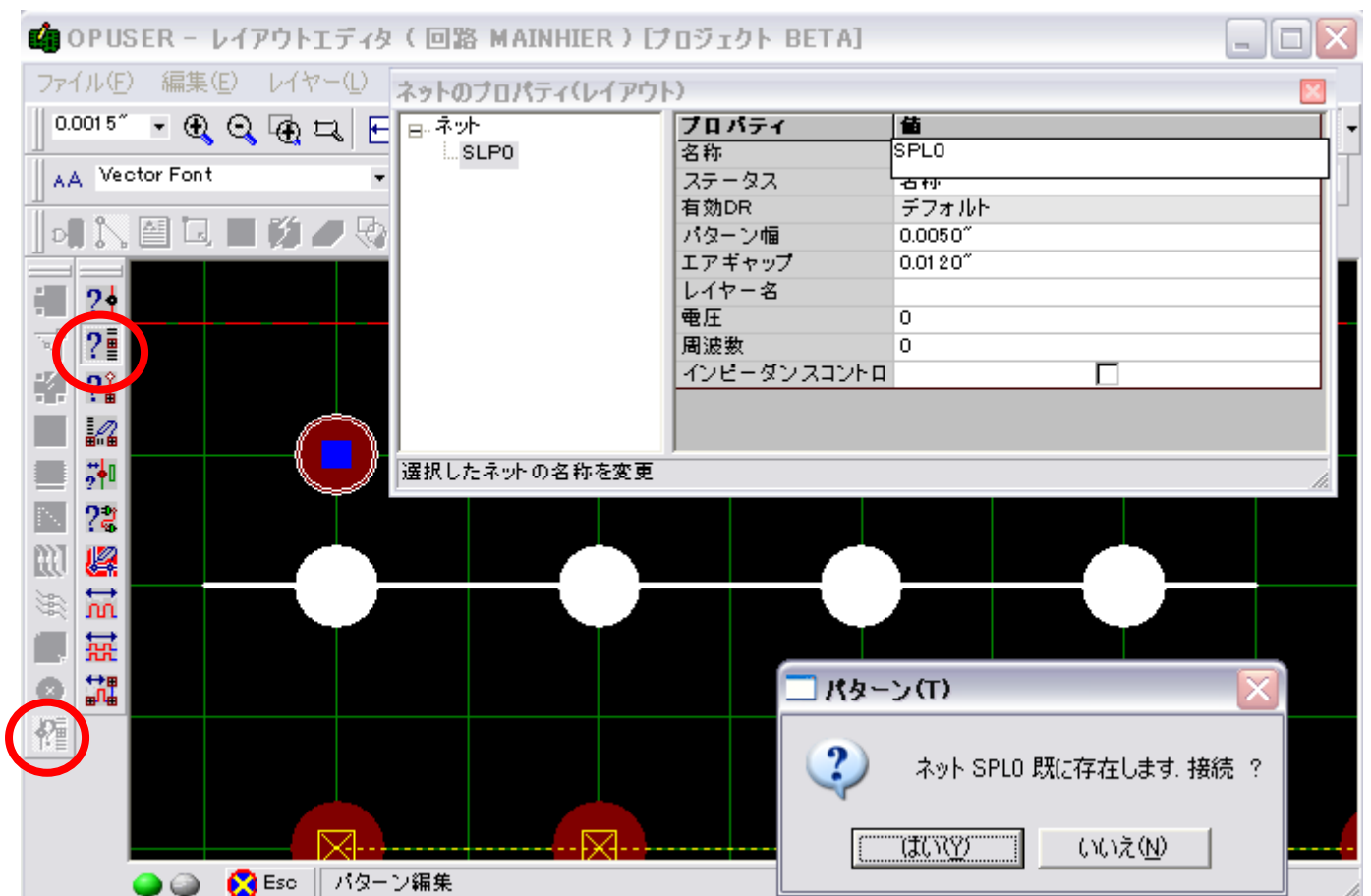
製作マネージャにて行う『ベタ短絡チェック』で確認可能です。



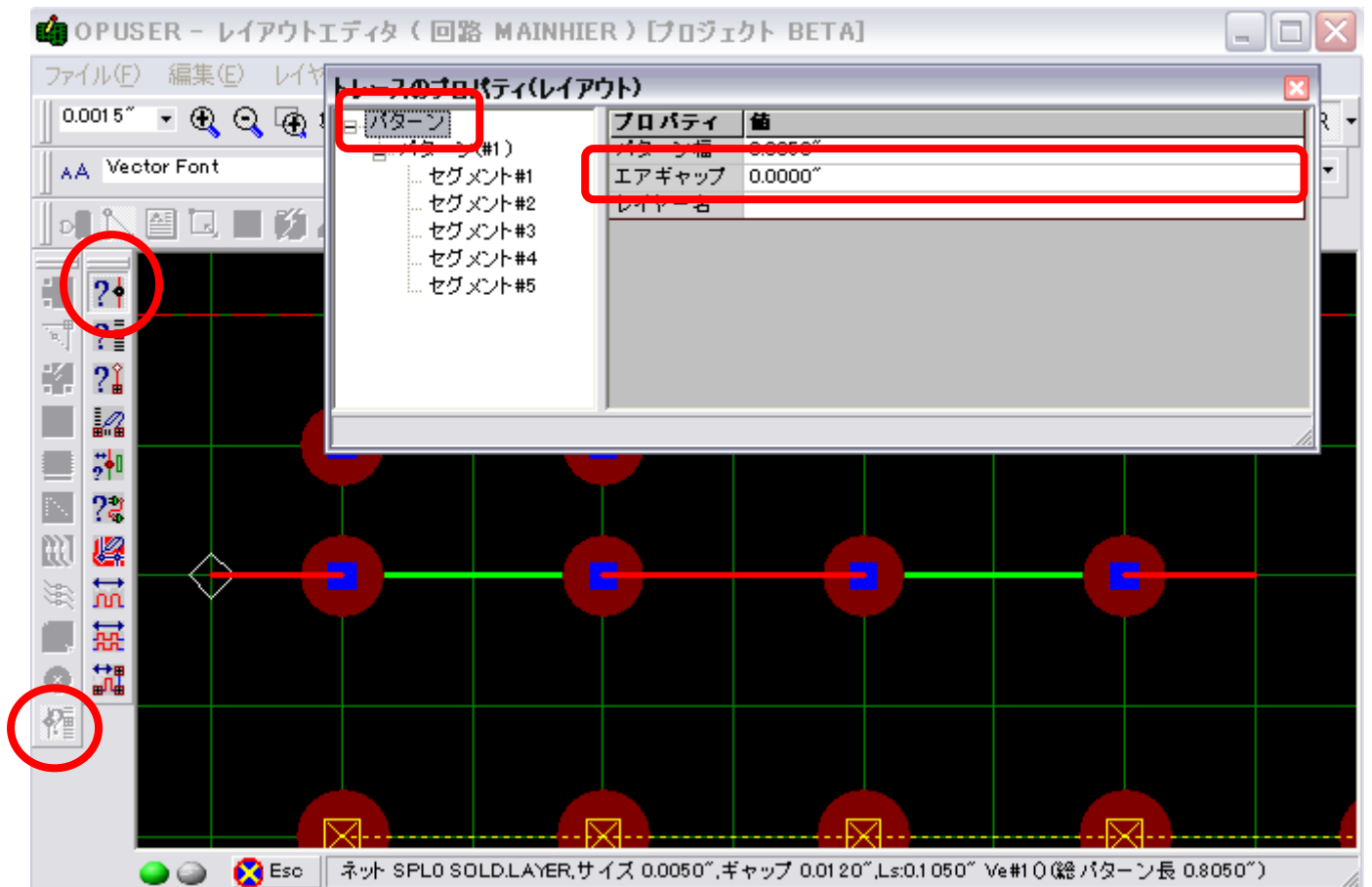
パターンの一部として配置する場合は、先ずパターンを作成、レイヤー変更してビア穴を表示させます。



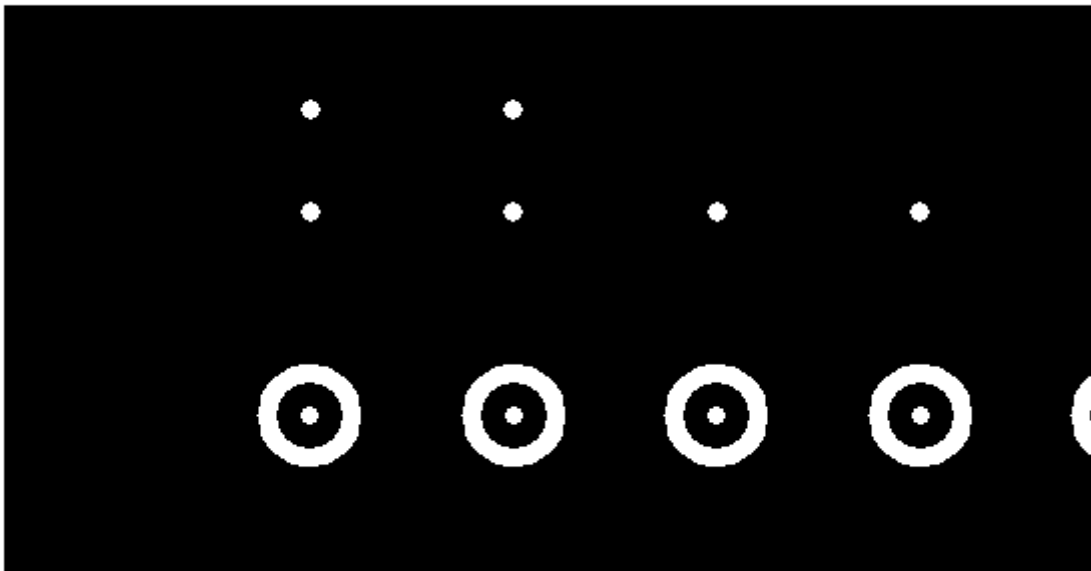
このままでは、新たに作成したパターンは『GND ネット』接続されていないパターンとなる為、ネット変更を行います。



更にパターンエアギャップを『0』へ変更します。



製作マネージャにてベタ面を確認すると下図の様になります。



この場合は、誤った接続個所は、レイアウトエディタ『自動/自動チェック』の『クリアランスチェック』にて表示されます。

